

浦添市 公共サイン計画

浦添城跡一帯

2021年3月
浦添市

— 目次 —

1. はじめに	1
(1) 業務の目的	1
(2) 業務範囲	1
(3) 対象となる公共サイン	2
2. 浦添城跡一帯の公共サインの現況及び課題整理	3
(1) 浦添城跡一帯に設置された公共サインの現況	3
(2) 業務範囲内のサインの現況分布	8
(3) 課題の整理	11
3. 上位関連計画の整理	14
(1) 第四次浦添市総合計画（基本構想・後期基本計画）【平成 28 年 3 月】	14
(2) 都市計画マスタープラン【平成 25 年 1 月】	16
(3) 浦添市景観まちづくり計画【平成 20 年 4 月】	18
(4) 浦添市観光振興計画【平成 30 年 3 月】	21
4. 公共サイン計画	22
(1) 公共サインの基本方針	22
(2) サインシステムの構築	23
(3) 表示内容のデザイン基準	26
5. サイン配置計画	41
(1) 浦添城跡一帯におけるサイン配置計画（案）	41

6. 維持管理計画.....	45
(1) サインの基本構造への対応	45
(2) 定期的な点検及び更新	45

資料編

【補足検討資料】 サインデザインのイメージ	
-サインデザインにおける浦添らしさ・沖縄らしさの検討	49
【参考資料】 その他参考ガイドライン等 一覧.....	55

1. はじめに

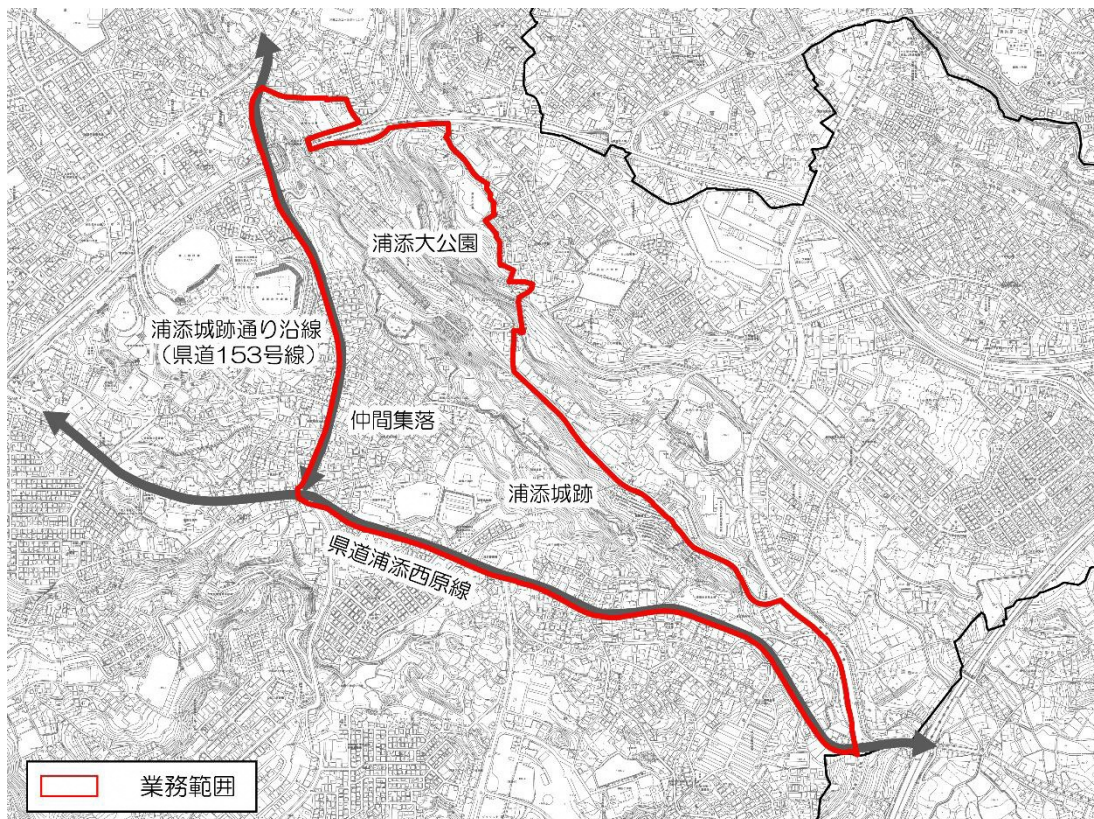
(1) 業務の目的

沖縄都市モノレール延長区間の開業に伴い本市への来訪者の増加が想定され、日本遺産へ認定された浦添グスクを含む関連施設まで適切に誘導するなどの円滑な移動を可能とすることを目的に必要な案内標識及び、誘導標識の設置を検討することを目的とします。

また、浦添城跡一帯を踏まえ浦添市全域への案内も考慮し、情報内容、表示方法の整合、及び異なる設置主体の案内標識等でのわかりやすい案内となるように連携が図りやすい計画を策定することを目的とします。

(2) 業務範囲

業務範囲は県道浦添西原線沿道(浦添消防本部付近から安波茶交差点)、浦添城跡通り沿線(県道153号線)及び浦添大公園や浦添城跡、仲間集落周辺を含む地域を本計画の業務範囲とします。



(3) 対象となる公共サイン

本計画で対象とする公共サインは、歩道上に設置、管理されている案内サイン及び誘導サインとします。



No.	サインの種類		計画対象	現況調査 (R2.7-9)	
①	鉄道事業者等が施設内に設置・管理するサイン	交通旅客施設	歩行者系サイン	計画対象外	対象
②	道路管理者、観光部署等が駅前広場等に設置・管理する案内サイン	道路施設	歩行者系サイン	計画対象	対象
③	道路管理者が歩道等に設置・管理する誘導サイン	道路施設	車両系サイン	計画対象外	対象
④					
⑤	道路管理者、観光部署等が歩道に設置・管理する誘導サイン	道路施設	歩行者系サイン	計画対象	対象
⑥	道路管理者、観光部署等が歩道に設置・管理する案内サイン	道路施設	歩行者系サイン	計画対象	対象
⑦	公園管理者が施設内に設置・管理する案内サイン	公園施設	歩行者系サイン	計画対象	対象
⑧	施設管理者が施設内に設置・管理するサイン	公共施設	歩行者系サイン	計画対象外	対象外

現況調査

対象となる公共サイン

(R2.7) では、上記のサインに加えて、規制サイン、説明サイン、記名サインを対象にして調査を行いました。

2. 浦添城跡一帯の公共サインの現況及び課題整理

(1) 浦添城跡一帯に設置された公共サインの現況

① 案内サイン



<p>概要・整備状況等</p>	<p>案内サインは、特定の範囲の全体像を伝えるもので、地図等の表現によって周辺の地理や施設等の位置関係がわかりやすく示されています。対象地域内における案内サインはいずれも周辺案内サインですが、構造や色彩は統一されていません。</p> <p>住居表示案内は郵便局や交番前等に設置されています。一部、彫刻的な形状のものがあります。</p> <p>公園内や城跡の施設案内は、主に公園の出入り口となる駐車場付近に設置され、遊具やお手洗い、文化財等の位置関係が示されています。</p> <p>文化財案内は、集落周辺に点在する文化財位置や、写真付きで文化財の説明等が示されています。</p>
-----------------	---

② 誘導サイン

■歩行者系



公園内施設への誘導
(A.歴史学習ゾーン)



公園内施設への誘導
(B.ふれあい広場ゾーン)
(C.憩いの広場ゾーン)



公園内施設への誘導
(A.歴史学習ゾーン)



集落案内と文化財への誘導



集落案内と文化財への誘導



文化財への誘導

■車両系



浦添城跡への誘導



浦添グスク・
ようどれ館への誘導



文化財への誘導

概要・ 整備状況等

誘導サインは、主に道路上の交差点や公園内の分岐点等に設置されており、目的となる施設の名称と矢印で方向が示されています。

浦添大公園内に設置されている誘導サインは、表示内容のデザインは統一されていますが、3種の規格が混在して設置されています。

仲間集落周辺においては、周辺地図にて現在地や文化財位置が示された、案内サインと組み合わせたものとなっています。周辺には、石灰岩を活用する等、デザインが統一された誘導サインが設置されています。

車両系は、統一されたデザインの文化財への誘導サインが数か所に設置されています。

③ 記名サイン



ゆいレール浦添前田駅



運動公園通り



浦添城跡通り



仲間ふれあい広場



浦添大公園



仲間桶川



カラウカー



浦添八景 浦添グスク

概要・整備状況等

記名サインは、道路名称や特定の施設、文化財等の名称等を表示しています。他との識別や現在地などの確認を行うための最も基本的な情報となります。一般的に他の情報要素と組み合わせて設置することも多くあります。

道路名称サインは、愛称がつけられている主要道の起終点および中間沿いに設置されています。

施設の記名サインについては、構造、デザイン等は統一されていません。

文化財等の記名サインは、下段の写真のような柱型が多く見られましたが、形状や表示内容等は統一されていません。

④ 説明サイン



浦添ようどれの歴史



ハクソー・リッジ



城壁（復元）



暗しん御門



龍福寺跡



サーターヤー跡



浦添市西海岸の石切場跡



公園内樹木



伊波普猷の墓

概要・ 整備状況等

説明サインは、地域資源の解説や、施設の利用方法等を説明します。自然や観光施設の解説、歴史学習のための情報を提供します。記名サインとしての役割も兼ねています。

多くの文化財が点在する地域であることから、教育委員会によって設置された説明サインが多くみられます。それぞれの解説の対象となる資源又は跡地付近に設置されています。

構造はいくつかの種類がありますが、木調や茶系等の落ち着いたもの统一到されています。集落周辺における、文化財散策の解説は、案内サインや誘導サインの要素と組み合わせたものになっています。石灰岩を活用し、形状や表示内容のデザインが統一されています。

⑤ 規制サイン



ハブに注意



許可車両以外の進入禁止



ゴミ捨ての禁止



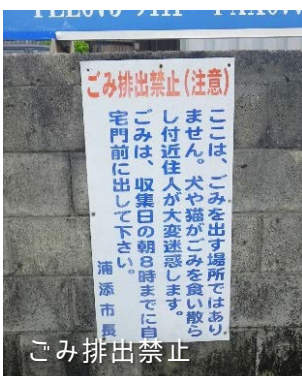
火気の使用禁止



史跡内での禁止事項



史跡内での禁止事項



ごみ排出禁止



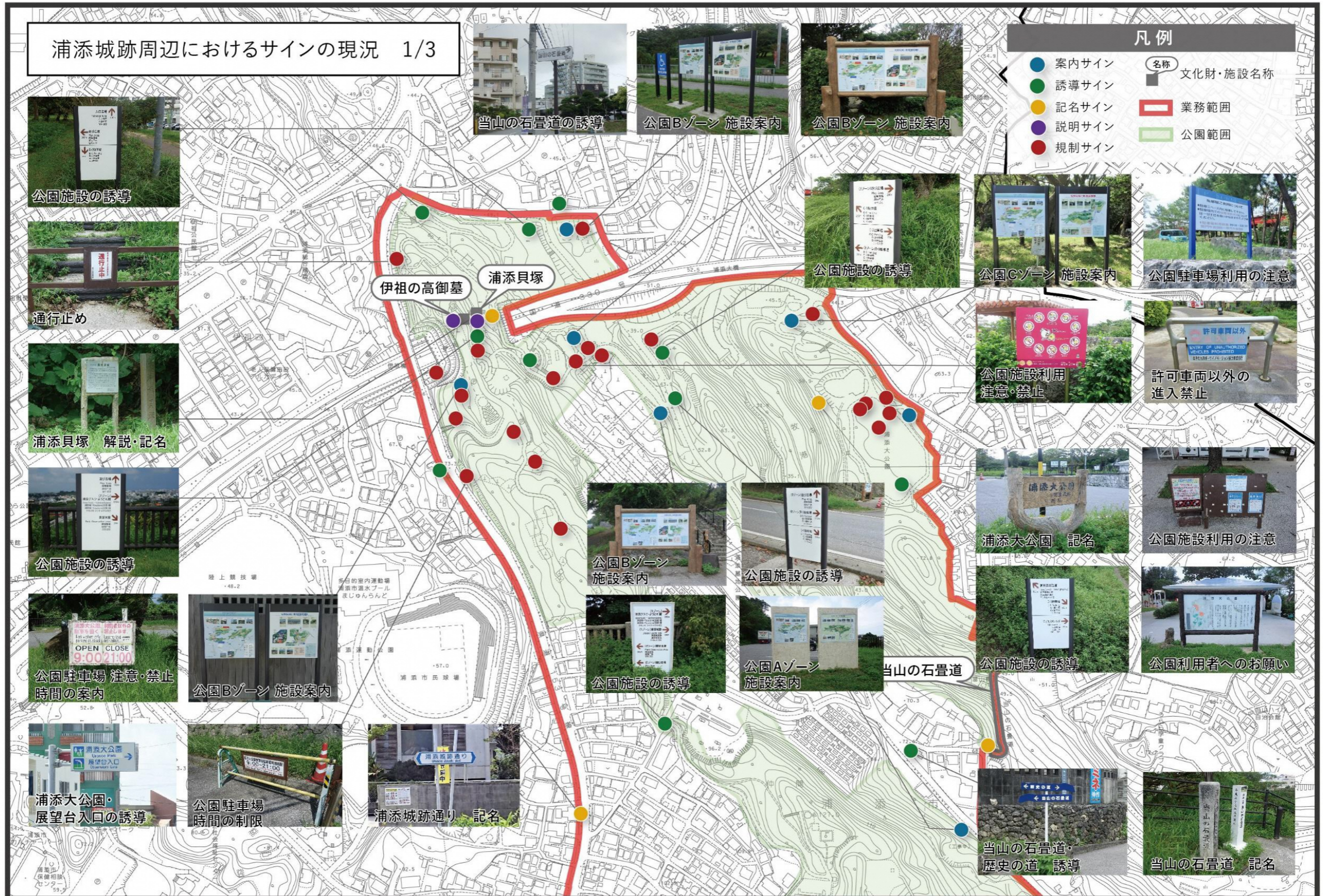
交差点注意



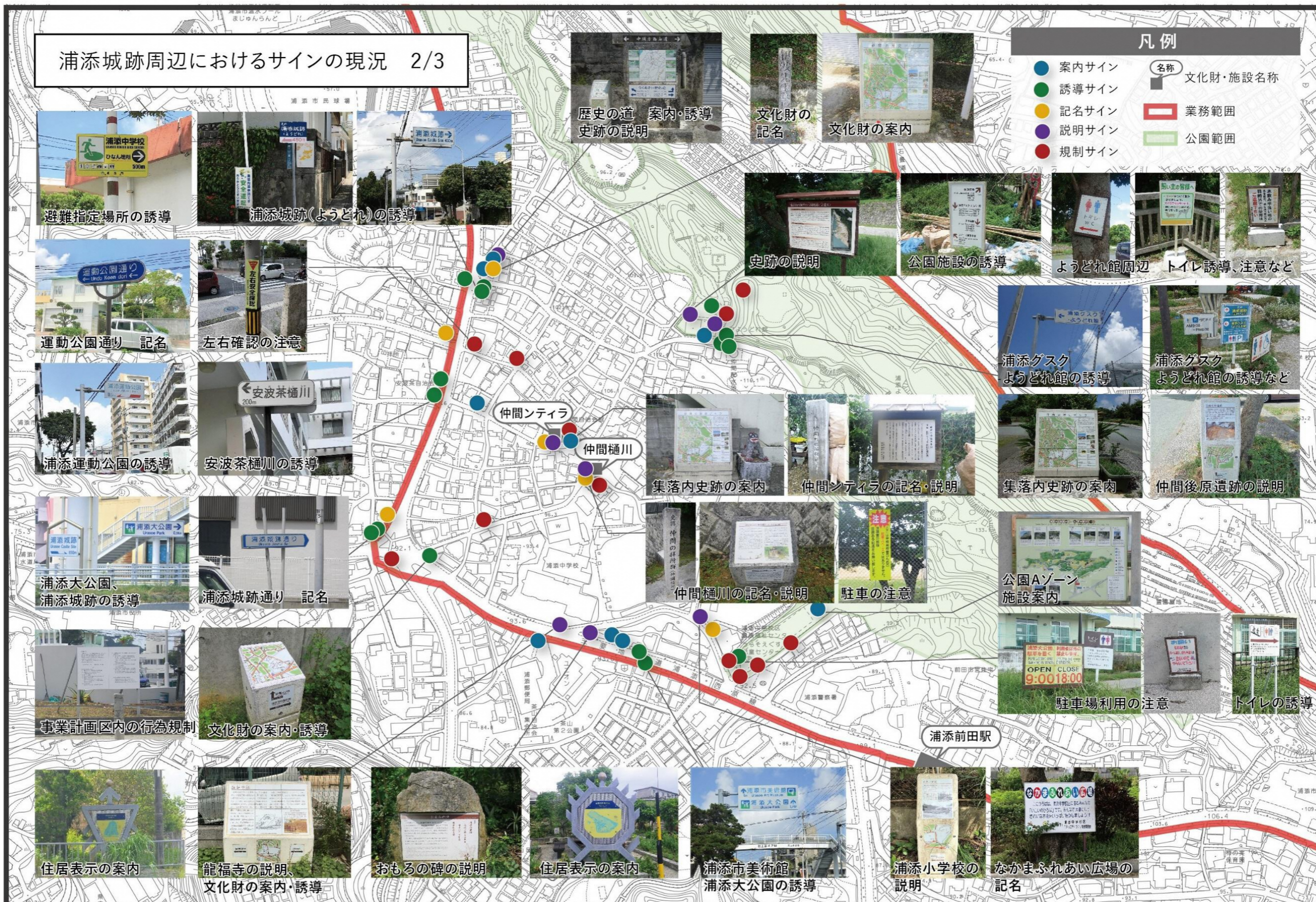
公園利用にあたっての禁止事項

<p>概要・ 整備状況等</p>	<p>規制サインは、利用上の注意や禁止事項等、行動を規制する情報を示します。立入禁止や火気使用の禁止等の表示に代表されます。</p> <p>史跡内や周辺においては、沖縄の風習を踏まえて、参拝時の行動規制等も多くみられます。</p> <p>設置場所は様々で、複数の異なる規制サインがまとまって設置されている場所も確認されます。</p> <p>構造は壁面設置型が多く、一部は自立型となっています。色彩や絵図等、素材は様々です。</p>
----------------------	---

(2) 業務範囲内のサインの現況分布



浦添城跡周辺におけるサインの現況 2/3



- 凡例**
- 案内サイン
 - 誘導サイン
 - 記名サイン
 - 説明サイン
 - 規制サイン
- 名称 文化財・施設名称
- 業務範囲
- 公園範囲



避難指定場所の誘導



浦添城跡(ようどれ)の誘導



歴史の道 案内・誘導
史跡の説明



文化財の記名
文化財の案内



運動公園通り 記名



左右確認の注意



安波茶樋川の誘導



浦添運動公園の誘導



安波茶樋川の誘導

仲間ンティラ

仲間樋川



集落内史跡の案内
仲間ンティラの記名・説明



浦添グスク
ようどれ館の誘導



浦添グスク
ようどれ館の誘導など



集落内史跡の案内



仲間後原遺跡の説明



浦添大公園、
浦添城跡の誘導



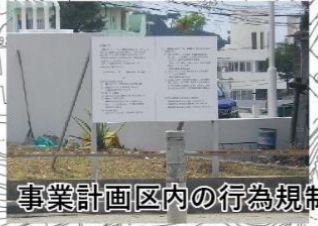
浦添城跡通り 記名



仲間樋川の記名・説明
駐車場の注意



公園Aゾーン
施設案内



事業計画区内の行為規制



文化財の案内・誘導



駐車場利用の注意
トイレの誘導

浦添前田駅



住居表示の案内



龍福寺の説明、
文化財の案内・誘導



おもろの碑の説明



住居表示の案内



浦添市美術館、
浦添大公園の誘導



浦添小学校の
説明



なかまふれあい広場の
記名

浦添城跡周辺におけるサインの現況 3/3

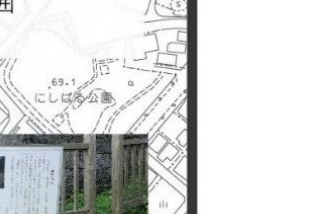
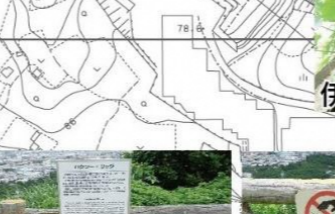
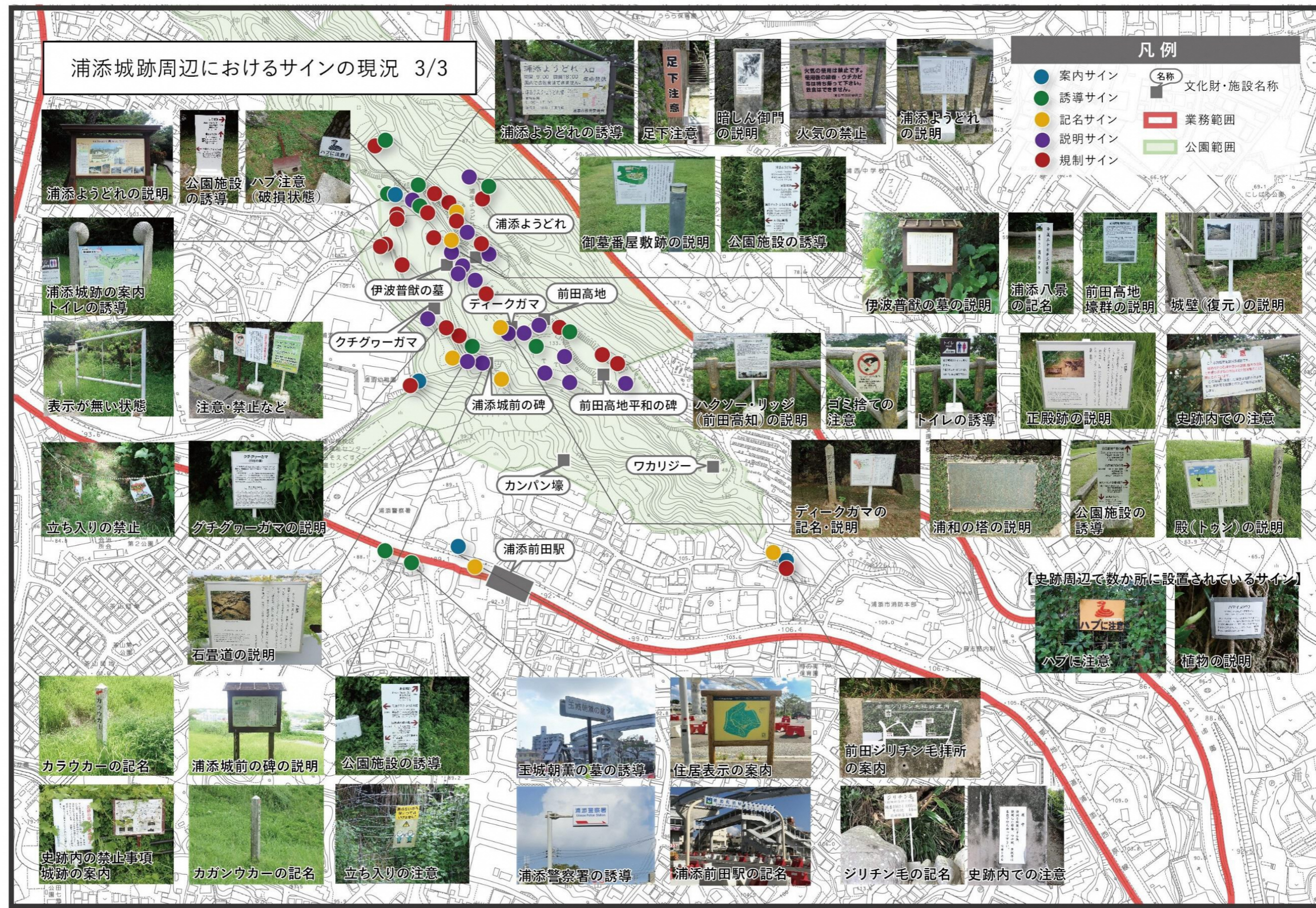
凡例

- 案内サイン
- 誘導サイン
- 記名サイン
- 説明サイン
- 規制サイン

名称 文化財・施設名称

業務範囲

公園範囲



【史跡周辺で数か所に設置されているサイン】

(3) 課題の整理

課題① 対象地区内にある公共サインのデザインや素材、形状等に関して統一した指針が無いことから、連続性の無いものとなっています。



課題② 一つの場所にデザインの異なる公共サインが多数設置され、無秩序な景観につながっています。



課題③ 景観重点地区等の歴史的趣のある地域については、地域の特色を反映し、歴史的風情の感じられる、景観と調和のとれた公共サインの在り方を検討する必要があります。



課題④ 景観との調和を図りながら、公共サインとして視認性の高さも重要です。書体や色彩の組み合わせ等には、高齢者・弱視者等への視認性にも配慮したデザインが必要です。



課題⑤

公共サインとしての機能が持続可能になるような、素材や設置方法、管理体制の検討が必要です

⑤-1: 植物に隠れ、注意・禁止サインとして内容が認識できないケース



⑤-2: 破損した部品等がその場に放置されているケース



⑤-3: 経年劣化によって視認性が低くなっているケース



課題⑥

国内外の観光客集客に向け、統一した多言語表記を行う必要があります。



課題⑦

案内サイン周辺に障害物等を放置しているなど、利用者に不便をきたしているケースが見受けられます。



課題⑧

同様の案内内容で、異なるデザインの公共サインを複数設置していることから、無秩序な印象が見受けられます。



課題⑨

主要道から集落を介した浦添城跡への誘導が少ない現状があります。

課題⑩

ゆいレール浦添前田駅構内は現在整備中であり、浦添城跡一帯の玄関口としての役割を検討する必要があります。

3. 上位関連計画の整理

(1) 第四次浦添市総合計画（基本構想・後期基本計画）【平成 28 年 3 月】

計画期間：2011年（平成 23 年）～2020年（平成 32 年）

将来人口：概ね 12 万人（平成 32 年）

■基本構想

1) 都市像

{てだこの都市（まち）・浦添}

2) まちづくりの目標

太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市

3) まちづくりの方向

- ①希望と活力にあふれた生活創造都市～ 新たな魅力の創造と市民生活を支えるまち ～
- ②世界へ翼を広げる交流文化都市 ～ 豊かな心と人を育むまち ～
- ③ともに支え合う健康福祉都市 ～ 心がかよい、夢がつながるいたわりのまち ～
- ④安全安心でやすらぎにみちた快適環境都市 ～ 自然と共生するやさしいまち ～
- ⑤ひと・まち・未来が輝く市民協働都市 ～ みんなでつくるてだこのまち ～

■後期基本計画

1) 土地利用計画

①土地利用ゾーン

【都心ゾーン】

浦添城跡から国道 58 号に至る浦添西原線沿いは、「てだこ都市文化」を発信し、ヒト・モノ・情報が行き交う浦添市の顔として、それぞれの拠点、ゾーンへのアクセスを整備します。また、本市のシンボルロードの一端を担う浦添西原線は、豊かな緑陰で被われたゆとりある歩道を確保するとともに、それぞれの特性に応じた個性ある沿道景観を創出します。

【ウラオソイ文化・交流ゾーン】

このゾーンを浦添市の過去から現在に至る国内外交流をはじめ、さまざまな市民活動が展開する交流空間として整備します。そのためには、浦添グスクの復元などによる歴史的環境を創出するとともに、遊歩道を含めたアクセスを整備します。

②都市の軸

【歴史・文化軸】

県道 153 号線は、ウラオソイ文化・交流ゾーンから那覇市首里に至る広域的な歴史・文化の道です。市民の生活軸としての役割を担うとともに、三王統から尚王統へ

と琉球王朝の歴史の道をたどる道でもあり、「琉球歴史廻廊」としての活用を基本に、歴史・文化の交流を通して浦添市の活性化への寄与に努めます。

2) まちづくりリーディングプラン

「地域力」を高める「ひとづくり・ものづくり・まちづくり」を基調とした第四次浦添市総合計画のまちづくりの目標を実現するための戦略的なプランとして位置づけます。

- ① ウラオソイ廻廊プラン：～ 浦添の歴史・文化とふれあえる都市環境を創出する ～
世界遺産追加登録を目指した浦添グスク等の拠点形成をはじめ、歴史・文化の普及啓発活動の推進に取り組み、浦添の歴史・文化とふれあえる環境を整備します。
- ② カルチャー発信プラン：～ にぎわいと市民文化がみちた都市軸の創出 ～
県道浦添西原線を親しみのあるシンボルロードとしての整備を促進し、地域特性を活かした交流・にぎわいを創出します。また、総合交通結節点の形成や公共交通システムの拡充を図るとともに、モノレール沿線やモノレール駅を核とした風格のある景観まちづくりを進めます。

3) 部門別計画

施策 2-7 歴史と文化の薫るまちづくり

【施策の展開】

①歴史・文化遺産の保存・整備・活用

浦添城跡周辺の公園整備については、関係機関と連携し、来訪者等が散策しやすいよう利便性の向上を図ります。特に都市モノレール延長整備に伴い新設される浦添前田駅からのアクセスの向上に努めます。

②歴史と文化のいきづくまちづくり

首里城と浦添城跡を結ぶ歴史廻廊に残された文化財の整備を推進し、浦添の歴史を日常に感じられるまちなみを創出します。

施策 4-5 連続した緑地と歴史、文化を活かした景観まちづくりの推進

【施策の展開】

①歴史と未来が織りなす美しいまちの形成

関係機関等と連携し、本市の顔となるシンボルロードの形成を推進します。

三王統の歴史と浦添城跡をとりまいて分布する数々の遺跡・文化財などの資産を活かし、沖縄都市モノレールの延長や駅周辺土地利用にも対応した個性と風格ある景観まちづくりを推進します。

(2) 都市計画マスタープラン【平成 25 年 1 月】

■将来都市像

1) まちづくりの目標

太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市

■部門別方針

1) 土地利用に関する方針

【シンボルロード地区】

本市を東西に走る浦添西原線および西海岸までの延長線上は、本市の「顔」に相応しい都市空間の創出を図る。特に、(仮称)前田駅から浦添警察署までの区間においては、世界遺産登録を目指す浦添グスク周辺のバッファゾーンとして、景観地区等の指定に向けた検討を行い、本市の新たな顔として、歴史文化資源や緑地等と調和した土地利用を促進する。

【モノレール駅周辺土地利用検討地区】

(仮称)前田駅周辺においては、商業業務、行政、文化施設などが集積しており、本市の新たな玄関口として、浦添グスクなど歴史文化資源と調和に配慮しつつ、賑わいの創出と観光客・地域住民を含めた交流促進を図る土地利用を検討する。

2) 市街地整備に関する方針

【モノレール駅周辺整備検討地区】

(仮称)前田駅周辺においては、商業業務、行政、文化施設などが集積しており、本市の新たな玄関口として、浦添グスクなど歴史文化資源に調和に配慮しつつ、交流広場や観光案内版の整備など、賑わい創出や交流促進を図る市街地整備の検討を行う。

3) 道路交通に関する方針

【景観重要公共施設指定など景観形成と連携した道路整備】

県道 1 5 3 号線については、浦添グスクなど歴史文化資源を有機的に結ぶ歴史街道の形成や観光ルートの形成を促進する。

【その他道路交通に関する施策】

国内外の観光客をはじめとする、誰もがわかりやすい交通情報の提供や、観光資源に関連した交通体系の拡充を推進

4) 景観形成に関する方針

①骨格別景観形成方針

【歴史文化のよりどころ地区】

浦添グスクや伊祖グスク、仲間集落、尚寧王の道等の歴史文化資源で構成される地区

【方針-1】

市民の歴史文化のよりどころ浦添グスク・伊祖グスクが主役となる景観形成を推進する。

【方針-2】

浦添グスクと密接なつながりを持つ首里城等を結ぶ歴史の道軸を形成する。

- 浦添グスク、伊祖グスクの修復・復元・整備に努める。
- 建造物の高さ、規模形態、素材、色彩等に配慮し、グスク周辺地区の佇まいにふさわしい景観形成に努める。
- 沿道における素材やサインなどを工夫し、首里城などを結ぶ歴史の道の連続性に配慮した景観形成に努める。
- グスクや伝統集落、歴史の道など歴史文化との交流、ふれあいを促す。

【都市を貫く軸線地区】

国道 58 号、国道 330 号、西海岸道路、浦添西原線、パイプラインなど本市の軸線となる道路の沿線地区

【方針-1】

南北の個性ある大動脈と、ゲートを感じさせる沿道景観を形成する（国道 58 号、国道 330 号、沖縄西海岸道路、西原 IC、新たな IC、モノレール駅周辺等）

【方針-2】

沿道の生活文化を活かした個性ある通り景観を形成する（パイプライン、浦添西原線、県道 153 号線、沢岬石嶺線）

- 幹線沿道建造物は壁面後退部の緑化に努めるとともに、色彩等に配慮し、ゆとりと品格ある沿道景観を形成する
- 安全性や美観に配慮するとともに、乱雑なイメージとならないよう、節度ある広告、サインの定着に努める
- 通りの起伏を活用するとともに、統一感のある街路樹の確保や、ポケットパーク等との一体性を工夫することにより、歩いて楽しい通りの景観形成に努める

②景観地区・重点地区

【仲間重点地区】

仲間重点地区は、浦添のなかの浦添（ドゥームラ）とも称され、浦添グスクをクサティ森として本市行政・文化の中心として発展した経緯があり、浦添市景観まちづくり条例に基づく重点地区として、瓦屋根や石垣などの維持保全、御嶽や拝所の整備などにより良好な景観形成を図る。

③景観重要公共施設

浦添西原線に関しては、本市のシンボルロードとして道路拡幅や無電柱化、ポケットパーク等の整備を促進し、一体性のある道路空間を確保するとともに、本市の都市軸としてふさわしい風格のある道路景観や沿道景観の形成に努める。

（3）浦添市景観まちづくり計画【平成20年4月】

■理念・目標

1) 理念

てだこ市民による ウラオソイ風景づくり

2) 目標

- ① てだこ市民が率先して取り組む協働の景観まちづくり
- ② てだこまちの緑と水辺と微地形を活かした景観まちづくり
- ③ てだこ市民の心を結ぶ歴史文化の薫る景観まちづくり
- ④ てだこまちの活力と国際性を活かした景観まちづくり

■浦添の景観特性と課題の整理

【歴史・文化・交流】

- 伊祖城跡から浦添城跡にかけては、公園整備が進められており、今後ともその歴史性に配慮しながら整備していく必要がある。特に建物の色の統一を図る必要がある。
- 市内に点在する歴史的資源は、今後市街地形成の進行する中で大切に保全し、散策路の整備によるネットワーク化等有効的に活用していく必要がある。

【道路軸】

- 幹線道路は、外来者に対して最初に浦添らしさを印象づける大切な地点となる。したがって、市の境界付近では、シティゲートとしてのイメージアップが必要であり、また、沿道の不揃いな建物形状や色彩、看板、ネオン等は工夫が必要である。

■良好な景観の形成に関する方針

1) 骨格別景観まちづくりの方針

①歴史文化のよりどころ地区

【方針-1】

市民の歴史文化のよりどころ浦添グスク・伊祖グスクが主役となる景観形成を推進します

【方針-2】

浦添グスクと密接なつながりを持つ首里城等を結ぶ歴史の道軸を形成します

【目標基準】

(ア) グスク周辺地区にふさわしい景観を形成する

○グスク周辺地区の佇まいを歴史的地区にふさわしい景観に整えるよう努める
(建造物の高さ・規模形態・屋根形態素材・色彩・屋外設備・塀・生垣・敷地内緑化など)

○赤瓦や琉球石灰岩など地域性をあらわす素材を効果的に活用する

(イ) 歴史の道の連続性を感じさせる

○首里城などを結ぶ歴史の道の連続性を感じさせるよう努める(素材・サイン・緑陰・見通しなど)

○沿道の歴史的資源をできるだけ活かす(修復・サイン整備など)

②都市を貫く軸線地区

【方針-1】

南北の個性ある大動脈と、ゲートを感じさせる沿道景観を形成します(国道58号、国道330号、沖縄西海岸道路、西原IC)

【方針-2】

沿道の生活文化を活かした個性ある通り景観を形成します(パイプライン、県道38号線、県道153号線、沢岬石嶺線)

【目標基準】

(ア) 節度ある広告・サインの定着

○安全性や美観に配慮した節度あるネオンサインとする(信号を阻害しないなど)

○乱雑・混沌のイメージを感じさせないセンスある屋外広告物・サインに努める

(イ) 歩いて楽しい通り景観を形成する

○通りの起伏を活かした個性ある沿道景観の形成を工夫する(統一した街路樹、建築物の屋根形態、見通しとアイストップ等)

○道路沿いの小広場やポケットパーク、バス停等と一体となった景観の形成を工夫する(人が座れる・たまれる、デッドスペースがない、ストリートファニチャー、目印となる、バス停緑化など)

○通りの由来や成り立ち等をできるだけ活かす（パイプラインの名称、軽便鉄道跡、オモロの碑、組踊の道など）

2) 良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項

行為ごとの景観形成基準[建築物及び工作物]（抜粋）

項目	景観形成基準
色彩	<ul style="list-style-type: none"> ● 落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観と調和した色彩とする。 ● 建築物の3階以上の外壁又は工作物の色は、着色していないコンクリート、金属、ガラス等は除き、明度8以上、彩度2以下の範囲の色彩とする。ただし、外観のアクセントとして着色する場合は、各壁面の10%以下においてその限りでない。
素材	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺景観と調和した、素材を使用する。 ● 赤瓦や琉球石灰岩など地域性をあらわす素材を効果的に活用する。特に、歴史文化のよりどころ地区では、歴史的地区にふさわしい素材の活用を心がけることとする。

■景観まちづくりの重点地区

1) 行為ごとの景観形成基準【建築物及び工作物】 対象：仲間地区

項目	景観形成基準
色彩	<ul style="list-style-type: none"> ● 落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観と調和した色彩とする。 ● 建築物の3階以上の外壁又は工作物の色は、着色していないコンクリート、金属、ガラス等は除き、明度8以上、彩度2以下の範囲の色彩とする。ただし、外観のアクセントとして着色する場合は、各壁面の10%以下においてその限りでない。また、浦添市景観まちづくり審議会の承認を得たもの或いは、歴史的又は文化的な事由により、当該色彩以外の使用が社会通念上認められている場合は、その限りでない。
素材	<ul style="list-style-type: none"> ● 浦添グスク周辺の歴史的地区にふさわしい佇まいに配慮した素材を使用するように努める。 ● 赤瓦や琉球石灰岩など地域性をあらわす素材を効果的に活用する。特に、歴史文化のよりどころ地区では、歴史的地区にふさわしい素材の活用を心がけることとする。 ● 外構の舗装は、積極的に浸透性のある材料を使用するよう努める。
屋外設備・サインその他	<ul style="list-style-type: none"> ● 浦添グスク周辺の歴史的地区にふさわしい佇まいに配慮して、屋外設備は、露出させないようにし、修景措置を講ずること。やむを得ず露出させる場合は公共空間から見えにくい位置に設置するよう努めること。 ● 鉄塔類の立地は、できるだけ大規模にならないよう、また目立たないように工夫する。 ● 安全性や美観に配慮した節度あるサインとする。

(4) 浦添市観光振興計画【平成30年3月】

■基本理念

〈浦添観光振興のキャッチフレーズ〉

古（いにしえ）の王城と新たないぶきに出会う てだこ（太陽の子）のまち うらそえ

■基本方針・施策

1) 基本方針

- ① 地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案
- ② 浦添の情報発信の強化
- ③ 受け入れ環境として、滞在拠点・交通の充実
- ④ 浦添観光を支える体制の充実
- ⑤ マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実

2) 観光施策

受け入れ環境として、滞在拠点・交通の充実

【交通・インフラの充実】

①案内サインの充実

浦添市には、入り組んだ道も多いことから、誰もが主要な観光施設や目的地に行くことができるよう、案内サインを充実させ、観光客にやさしい地域を形成していきます。また、訪日外国人にもわかるよう、多言語表記も推進していきます。

【観光地域としての空間形成】

②まちなみ・景観保全（景観地区検討、自然緑地保全、商店街、季節や時間帯に応じたまちなみ・景観・眺望スポット活用）

観光客に、地域の文化・歴史・自然等に根付いた地域ならではの世界観を感じてもらうために、浦添城跡の界隈や自然緑地の保全を推進していくとともに、市内の開発動向に合わせて浦添市独自のまちなみを維持・形成していきます。

また、季節や時間帯に応じたまちなみ・眺望スポット等が市内各場所にあることから、観光資源として活用し、浦添らしい空間を伝えていきます。

4. 公共サイン計画

(1) 公共サインの基本方針

上位関連計画より公共サインに関する事項から、浦添市の公共サイン整備にかかる基本方針を下記の様に検討します。

また、上位関連計画及び関連条例等が見直し改正された場合は、適宜整合性を図りながら検討していくものとします。

① 浦添グスクと首里城が連携した歴史の道をつなぐ公共サイン

浦添グスクと密接なつながりを持つ首里城等を結ぶ歴史の道軸について、歴史を日常に感じるまちなみを形成する公共サインとします。

② 来訪者が安心して目的地に到達し、散策のしやすさに配慮した公共サイン

新たな玄関口となるモノレール駅を拠点とし、来訪者が安心して目的地に到達できるサインの配置とする公共サインとします。

③ 沖縄らしい素材を活用し、地域の風土を感じる公共サイン

赤瓦や琉球石灰岩などの素材を活用し、沖縄の文化や地域の風土を感じるデザインとし、沖縄らしさを演出する公共サインとします。

④ 定期的な維持管理による安全性への配慮

老朽化や破損した広告物をそのままにしておくと、重大な事故や災害等に繋がる懸念されることを踏まえ、日常における点検や保守等による維持管理活動など定期的な維持管理により安全性への配慮を行う公共サインとします。

(2) サインシステムの構築

サインはコミュニケーション・メディアの一種で、情報・様式・空間上の位置という3つの属性を持っています。視覚表示設備は、見やすさとわかりやすさを確保するために、情報内容、表現様式（表示方法とデザイン）、掲出位置（掲出高さや平面上の位置など）の三要素を考慮することが重要となります。

1) 首里城との連続性について

上位計画（第4次浦添市総合計画、浦添市景観まちづくり計画）より、首里城と浦添城跡を結ぶ歴史的道軸の形成を図ることが示されていることを踏まえ、首里城との連続性を感じさせるようなサインデザインについて検討します。

案内サイン

【浦添城跡周辺】



- 浦添城跡周辺における案内サインは、規格、表示内容で複数のデザインのものが設置されています。
- 公園内については、統一された表示内容となっています。
- 城跡付近については案内サインが一つの拠点に複数設置されており、それぞれで異なるフォントや絵図を用いた表示内容、規格となっています。
- 公園内の案内サインは、親しみやすさが感じとれる石灰岩造の立型サインが多く設置されています。

【首里城周辺】



- 首里城周辺における案内サインは、石灰岩造や木製、赤瓦が素材に使用されています。
- 規格、表示内容において様々なデザインとなっていますが、赤瓦をイメージさせる赤色や明朝体の文字などで統一され、首里城の風格ある景観に沿ったデザインとなっています。

誘導サイン

【浦添城跡周辺】



- 浦添城跡周辺における誘導サインは、概ね統一されたデザインや表示内容となっていますが、ゾーンによって異なる素材・規格の立型サインが設置されています。
- 集落や文化財の誘導サインについては、白、またはクリーム色を基準色としたサインや、石造のサイン等、異なる規格・デザインのサインが設置されています。
- 一部は日本語のみで多言語表記の無いものがあります。

【首里城周辺】



- 首里城周辺における誘導サインの基準色は、赤色、もしくは木目調に統一されています。
- 形状は立型と柱型が多くみられ、複数の規格が設置されています。
- 表示内容はゴシック体の文字で統一され、文字による情報を簡潔にし、方向を示す矢印やピクトグラムが大きく表示されています。また、著名地点には必ず英語表記がされています。

2) サイン配置の考え方

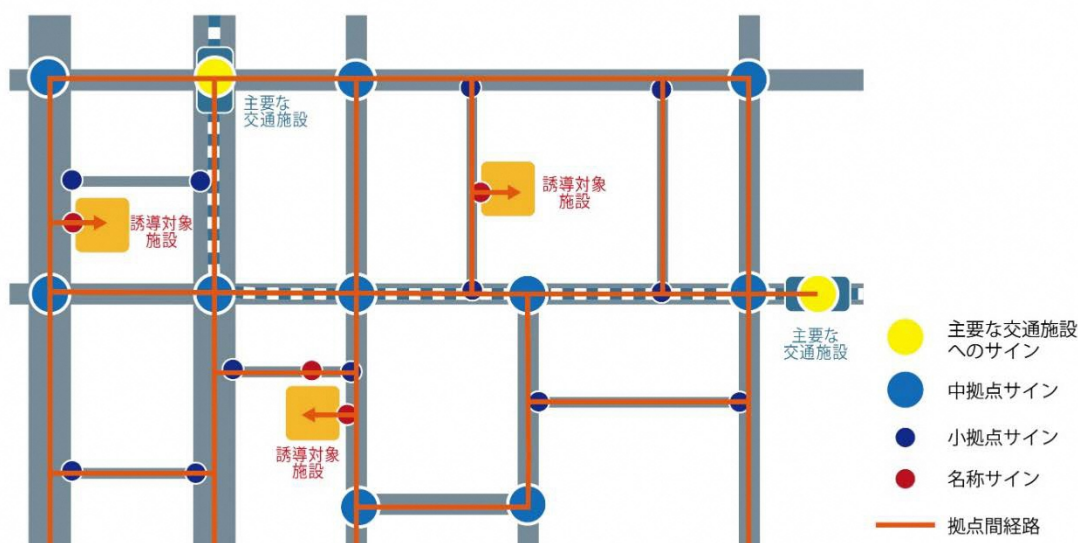
歩行者系における公共サインは、目的地までの距離や方角、経路を認識させ、現在位置を正確に把握することが重要となります。

また、公共サインが必要な各拠点については、比較的歩行者が多く、様々な情報の散在が想定されるため、景観に配慮しながら地理案内や情報提供を行う公共サインシステムを整備します。

そのため、市民や観光客等をはじめとする来訪者の方が、都市モノレール駅等の主要な交通施設から目的地まで移動する場合を想定し、サインを設置する拠点として「**主要な交通施設**」「**中拠点**」「**小拠点**」の3拠点を設定します。

- | | |
|------------------|--|
| ① 主要な交通施設 | <ul style="list-style-type: none">● モノレール駅前の広場等の交通主要施設には、目的地への行動拠点となる総合案内を目的とする案内サイン及び誘導サインを目立つ場所に配置します。● 案内サイン部分については、地域案内図を掲示し、誘導サインには、誘導施設名称のみを案内することとし、距離、方向を掲示します。 |
| ② 中拠点 | <ul style="list-style-type: none">● 中拠点への配置は、主要な交差点や歩行動線の分岐点等への配置を基本とします。また、案内サイン部分については、地域案内図を掲示し、誘導サインには、誘導施設名称のみを案内することとし、距離、方向を掲示します。 |
| ③ 小拠点 | <ul style="list-style-type: none">● 小拠点への配置は、交差点などの分岐点に誘導サインを適切に配置し、表示内容は、誘導施設名称、距離、方向を掲示します。 |

■ 配置位置の概念図



(3) 表示内容のデザイン基準

1) 基本的な言語表記

基本方針において「来訪者が安心して目的地に到達し、散策のしやすさに配慮した公共サイン」を掲げていること及び「沖縄県における多言語観光案内サイン翻訳ルール」において、「中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、英語の言語が翻訳されていることを踏まえ、日本語と中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、英語の4種類による表記を基本とします。

2) 表記書体

多言語による表記や案内を作成する際には、文字のフォントに留意する必要があります。通常、日本語に使用するフォントでは、各言語の文字がうまく表記されず、分かりにくくなってしまう場合があるため、適切なフォントを使用することが大切です。

そのため、「来訪者が安心して目的地に到達し、散策のしやすさに配慮した公共サイン」の基本方針に基づき、ユニバーサルデザインフォント（UD Font：Universal Design Font）や角ゴシック系等のシンプルで判別しやすい文字を基本とします。ただし、歴史的な空間を醸し出す地域や賑わいのある地域等については、その地域に合ったフォントの使用を必要に応じて検討するものとします。

また、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、英語の表記の考え方については、「沖縄県における多言語観光案内サイン翻訳ルール」の内容を踏襲することとします。

■角ゴシック体の書体例

←太いウェイト書体

細いウェイト書体→

浦添城跡

浦添城跡

浦添城跡

■ユニバーサルデザインフォントの例

シンプルなデザインに配慮

判別しやすく空間を確保

明朝 → UD

明朝 → UD

【ユニバーサルデザインフォント（UD Font）とは】

「ユニバーサルデザイン」の基本的な考え方である“文化・言語・国籍の違い、老若男女、障がい者など誰でも多くの人々が利用可能であるようなデザイン”のコンセプトを取り入れ、誰もが生活する上で「使いやすさ・見やすさ」といった細かい部分にも配慮・工夫をしたフォントのことです。

3) 文字の大きさの選択の目安

遠くから視認する誘導サインや位置サインなどは 20m以上、近くから視認する案内サインや誘導サインなどは 4～5m以下、案内サインの見出しなどは 10m程度に視距離を設定することが望ましいです。

■文字の大きさについて

視認距離	日本語文字高	その他多言語文字高
30mの場合	120mm以上	90mm以上
20mの場合	80mm以上	60mm以上
10mの場合	40mm以上	30mm以上
4～5mの場合	20mm以上	15mm以上
1～2mの場合	9mm以上	7mm以上

「バリアフリー整備ガイドライン(旅客施設編)」国土交通省 より

4) ピクトグラム

地図標識に用いるピクトグラムは、表紙綺麗、表示案内用図記号のデザインとすることを基準とし、視認性・判読性を高めたものとする事が望ましいです。

使用するピクトグラムについては、「著名地点道路案内標識マニュアル(沖縄総合事務局)」に示されている「沖縄ブロック標準ピクトグラム」を基本とします。

「沖縄ブロック標準ピクトグラム」に記載されていないものについては、「案内用図記号(JIS Z8210)」を使用します。また、ピクトグラムのない施設については、アイキャッチャー・マークとしてドットマーク(■)を使用します。

■著名地点道路案内標識マニュアル「沖縄ブロック標準ピクトグラム」



■案内用図記号 (JIS Z8210) ピクトグラム (一部抜粋)

公共・一般施設

				
案内	案内所	病院	救護所	警察
				
お手洗	男性	女性	障害のある人が 使える設備	スロープ
				
飲料水	喫煙所	チェックイン/受付	忘れ物取扱所	ホテル/宿泊施設
				
きっぷうりば/ 精算所	手荷物一時預かり 所	コインロッカー	休憩所/待合室	ミーティング ポイント
				
銀行・両替	キャッシュサービ ス	郵便	電話	ファックス
				
カート	エレベーター	エスカレーター	上りエスカレーター	下りエスカレーター
				
階段	ベビーケアルーム	クローク	更衣室	更衣室 (女性)

5) 色彩

色彩については、視力の低下した高齢者や色弱者にも表示内容が見やすく、わかりやすい表現となるよう配慮することが重要です。また、地図と図、文字の色の明度差を十分にとるように配慮することも重要です。

そのことから、周辺の色彩や空間構成等を考慮し、サインがあることが分かりやすく、かつ、周辺の景観を阻害しないような色彩とします。

■見分けやすい配色例



■見分けにくい配色例



色弱者の見え方は、赤色や緑色の成分を足した色が区別しにくく、また、彩度の低い色どうしや鮮やかな蛍光色どうしの見分けも難しく同じ色に見えてしまいます。そのことから、視認性の高い色彩の組み合わせに配慮することが重要です。

■色弱者の見え方



「バリアフリー整備ガイドライン(旅客施設編)」国土交通省 より

【色のシミュレータ】

「色のシミュレータ」は、様々な色覚特性を持つ人の色の見え方を体験するための色覚シミュレーションツールとなっています。地図を作成する際には、「色のシミュレータ」を使用し確認するなどの配慮が必要です。

6) 案内サイン基準

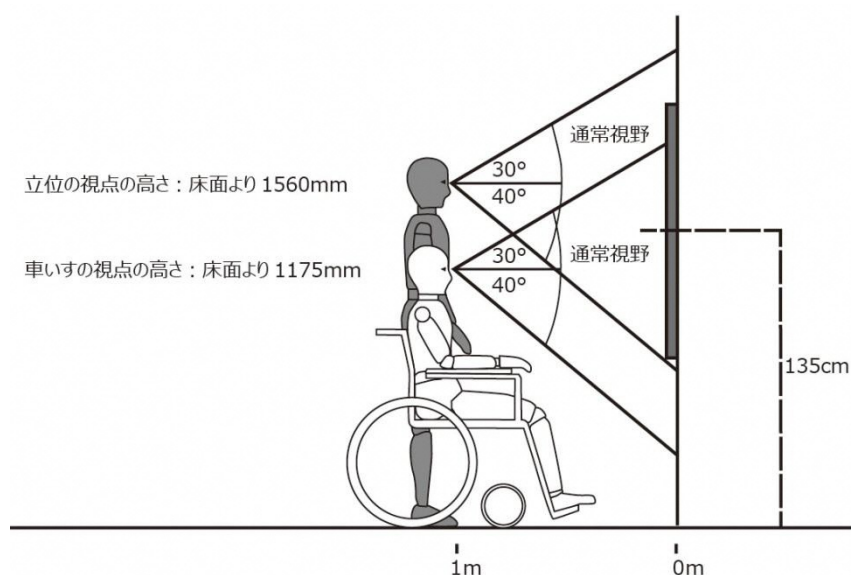
①サインの表示位置について

「表示面の中心の高さ」が立っている人と車椅子使用者の視点の中間の高さは約 135 c m となっています。

地図標識の中心の高さを 135 c m とした場合、車椅子使用者は地図標識の上部の判読が困難であり、立位と車椅子の通常視野の中心の中間の高さは、視野の中間点よりもやや低い位置にあります。

そのため、ユニバーサルデザインの観点から地図標識の中心の高さは 125 c m 程度とし、車椅子利用者が視認しやすい形状の案内サインの検討をおこなうことが望ましいと考えられます。

■直立形状の案内サイン



「バリアフリー整備ガイドライン(旅客施設編)」国土交通省 より

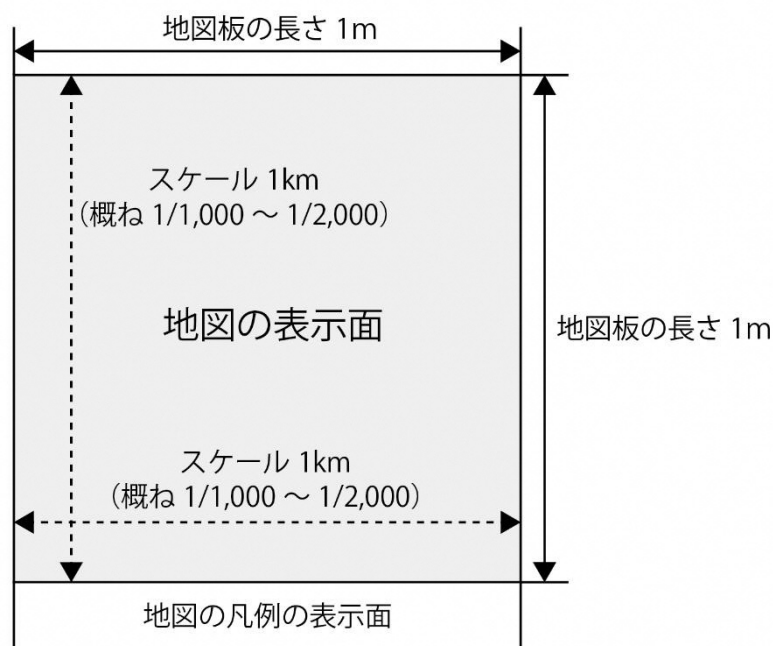
②表示情報について

「地域案内図」の板サイズは概ね1m四方の板とします。また、スケールは、概ね1km四方（概ね1/1,000～1/2,000）で表示するものとし、サインに向かって前方を上として表示します。ただし、案内サインの規模次第で「地域案内図」の板サイズやスケールについては柔軟に対応するものとしします。

「地域案内図」「凡例」の位置は、車椅子利用者の方も視認しやすい様に、地図面の下段の方への配置を基本とします。

案内サインに示す地図上での表示情報の内容については、「バリアフリー整備ガイドライン（旅客施設編）」で示す内容を基本とします。

■地域案内図の板サイズ



■表示情報の内容

情報内容		情報内容例	ベース	ピクト	名称
街区・道路・地点	地勢等	山、湾、島、半島、河川、湖、池、堀、港、埠頭、運河、棧橋	○		○
	街区等	市、町、村、街区	○		○
	道路	高速道路、国道、都道府県道、有名な通称名のある道路	○		○
	地点	インターチェンジ、交差点、有名な橋	○		○
	交通施設	鉄軌道路線、鉄軌道駅、バスのりば、旅客船ターミナル、航空旅客ターミナル、駐車場、地下道出入口・歩道橋	○	○	○
	旅客施設周辺の移動等円滑化設備	公衆トイレ、エレベーター、エスカレーター、傾斜路	○	○	
	情報拠点	案内所		○	
観光・ショッピング施設	観光名所	景勝地、旧跡、歴史的建造物、大規模公園、全国的な有名地		○	○
	大規模集客施設	大規模モール、国際展示場、国際会議場、テーマパーク、大規模遊園地、大規模動物園	○		○
	ショッピング施設	大型商業ビル、地下街、百貨店、有名店舗、卸売市場	○		
文化・生活施設	文化施設	博物館・美術館、劇場・ホール・公会堂・会議場、公立図書館	○		○
	スポーツ施設	大規模競技場、体育館・武道館・総合スポーツ施設	○		○
	宿泊集会施設	ホテル・結婚式場・葬斎場	○		
	行政施設	中央官庁又はその出先機関、都道府県庁、市役所、区役所、警察署、交番、消防署、裁判所、税務署、法務局、郵便局、運転免許試験所、職業安定所、大使館、領事館	○	○	○
	医療福祉施設	公立病院、総合病院、大学病院、保健所、福祉事務所、大規模な福祉施設	○		○
	産業施設	放送局、新聞社、大規模な工場、大規模な事務所ビル	○		
	教育研究施設	大学、高等学校、中学校、小学校、大規模なその他の学校、大規模な研究所	○		○

※上記の表示情報内容を基本としますが、管理者の判断によって必要な情報を記載するものとします。

③地図上の色彩について

案内サインに示す地図上の色彩については、「公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック（国土交通省）」における考え方を踏襲するものとします。

また、公共サインの基本方針①「浦添グスクと首里城が連携した歴史の道を結ぶ公共サイン」の考え方で首里城との密接なつながりがあること踏まえ、那覇市内に設置されているの案内サインの色彩も踏襲した考え方とします。

■ベース図となる地図上の色彩

項目	色見本	CMYKの値	
ベース（敷地）		C: 0% M: 4% Y: 7% K: 17%	
水域		C: 40% M: 0% Y: 0% K: 0%	
境界線（市町村界）		C: 100% M: 100% Y: 10% K: 100%	
道路		C: 0% M: 0% Y: 0% K: 0%	
軍用地		C: 30% M: 50% Y: 55% K: 0%	
公園・霊園	敷地		C: 30% M: 0% Y: 60% K: 0%
	園路		C: 16% M: 0% Y: 24% K: 0%
建物		C: 1% M: 6% Y: 9% K: 40%	

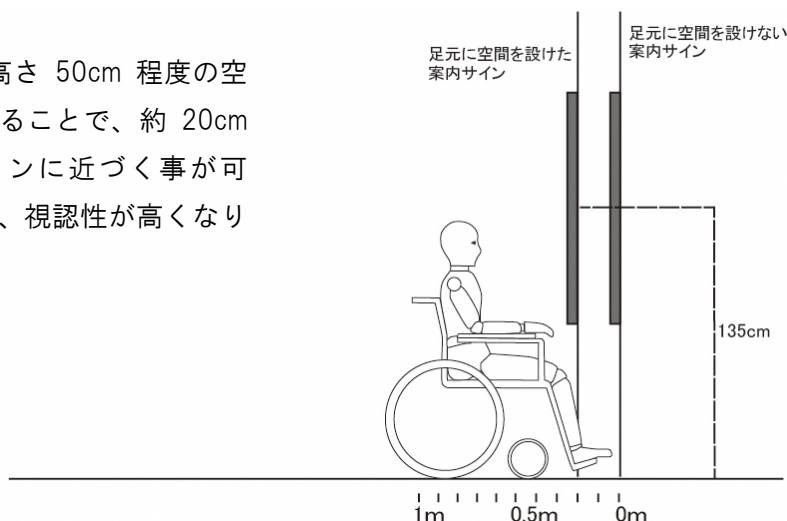
④ユニバーサルデザインとしての配慮について

車椅子利用者の視認性を良くするため、案内サインの足元に高さ 50cm 程度の空間を設ける設置方法や表示面を傾斜させるなどの表示方法を検討するものとします。

また、視覚障がい者に対して案内サインの場所を知らせるため、音サインや音声案内の設置を検討するものとします。

■車椅子利用者の視認しやすさに配慮した設置イメージ

足元に高さ 50cm 程度の空間を設けることで、約 20cm 案内サインに近づく事が可能になり、視認性が高くなります。



⑤現在地の表示について

現在地は、方向者が向いている方向を考慮した現在地の表示が望ましいため、地図面と向かい合った時に、上を前方として表示します。なお、地図標識上に表す「現在地」は利用者が地図標識上のどこにいるのかを表現するものであるため、英語表記を「You are Here」と表示します。



⑥案内サインの地図に使用する文字・ピクトグラムのサイズについて

「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」より、案内サインの文字の高さについては、視認距離 50 c m を想定し、「バリアフリー整備ガイドライン(旅客施設編)国土交通省」の視認距離 1~2m の文字高の約 1/2 の大きさ(日本語 5 m m 以上、多言語 4 m m 以上)を基本とします。また、表示内容の見やすさに配慮し、表示施設により文字高を変えて表示するものとします。

ピクトグラムの大きさは 12.0 m m 「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」と同様のものとします。

■表示内容の見やすさに配慮した文字高

	ピクトグラム	日本語	英語・中国語・韓国語	表示施設
凡例部表示	24.0mm	10.5mm	8.0mm	凡例部分
特大サイズ	—	18.0mm	14.0mm	市町村名(図中に境界がある場合のみ)
大サイズ	21.0mm	9.0mm	7.0mm	案内所、情報コーナー、県庁、市役所、博物館、美術館など
中サイズ	16.5mm	7.0mm	5.5mm	郵便局、交番、病院、デパート、ホテル、埠頭、丁目など
小サイズ	12.0mm	5.0mm	4.0mm	橋梁名、交差点名、バス停名、広域図の情報など

「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」国土交通省 より

⑦その他の表示について

案内表示となるインフォメーションマーク(「i」マーク)の表示や現在地が把握しやすいよう背面などに設置場所の所在地や通り名称などの表示を検討するものとします。

7) 浦添城跡一帯におけるサインデザイン (案)

①浦添大公園・浦添城跡などの公園内について

■案内サイン

浦添大公園などの規模の大きな公園や浦添城跡など歴史性を感じる地域については、浦添大公園と浦添城跡一帯に設置されている既存の案内サインと統一感を図るため、縦長の形状に琉球石灰岩を使用したデザインとします。

ただし、歴史性を醸し出すために木材や木目の素材を活用する際は、縦長の形状のみならず横長の形状でのデザインも必要に応じて検討するものとします。



縦長の形状で琉球石灰岩を使用した案内サイン



横長の形状で木目の素材を使用した案内サイン

■誘導サイン

浦添大公園などの規模の大きな公園や浦添城跡など歴史性を感じる地域については、浦添大公園と浦添城跡一帯に設置されている既存の誘導サインと統一感を図るため、縦長の形状で琉球石灰岩を使用し、両面に誘導表示を用い、面の色彩は白色を基調としたデザインとします。

ただし、同デザインの誘導サインの設置が難しい場所については、柱型の誘導サインのデザインも必要に応じて検討するものとし、表示面の色彩は白色を基調としたデザインとします



縦長の形状で琉球石灰岩を使用した誘導サイン



柱型の形状で白を基調とした誘導サイン

②公園以外について

■案内・誘導サイン

本計画では、浦添城跡一帯における公共サイン計画であることを踏まえ、浦添城跡一帯を含め、統一されたサインデザインであることが重要となります。よって、浦添大公園や浦添城跡などの公園以外への案内・誘導サインについては、「①浦添大公園・浦添城跡などの公園内について」で示すデザインを基本とします。ただし、誘導サインについては、歩行者の妨げにならないよう柱型の誘導サインのデザインとします。

■景観形成地区におけるサイン

仲間地区のように歴史的なまちなみ景観の形成を有している地区については、同地区に設置されている既存のサインと統一感を図るため、同様の規格・形状・素材を基本とします。

ただし、地図面の配色や文字、ピクトグラム等の考え方は本計画で示す内容を基本とします。



仲間地区に設置されている説明サイン

③車椅子利用者への配慮について

車椅子利用者の視認性を良くするため、案内サインに近くづくことができるよう、案内サインの足元に高さ 50cm 程度の空間を設ける設置方法や表示面を傾斜させるなどの表示方法を検討するものとします。



足元に空間を設けた案内サインの事例
【那覇市内】



足元に空間を設け、表示面を傾斜させた案内サインの事例 【東京都】

また、案内サインを設置する場所については、車椅子利用者が案内サインに近くことができるよう、園路場や歩道上に設置することを基本とします。



緑地に設置されているため、車椅子利用者が案内サインに近づけない事例

5. サイン配置計画

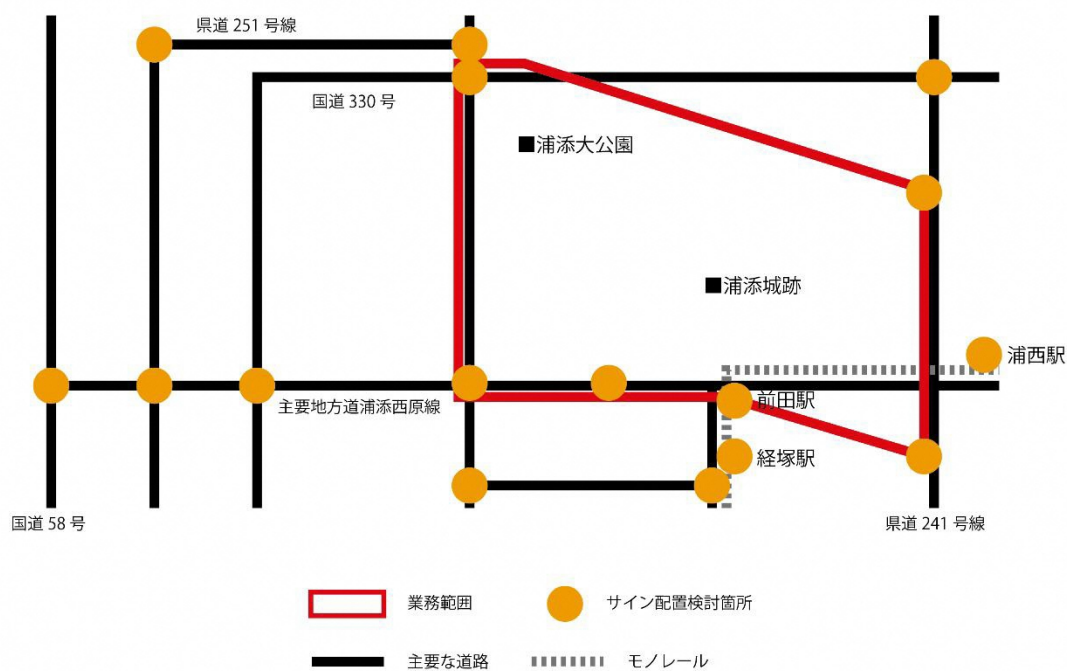
(1) 浦添城跡一帯におけるサイン配置計画（案）

1) サイン配置の考え方

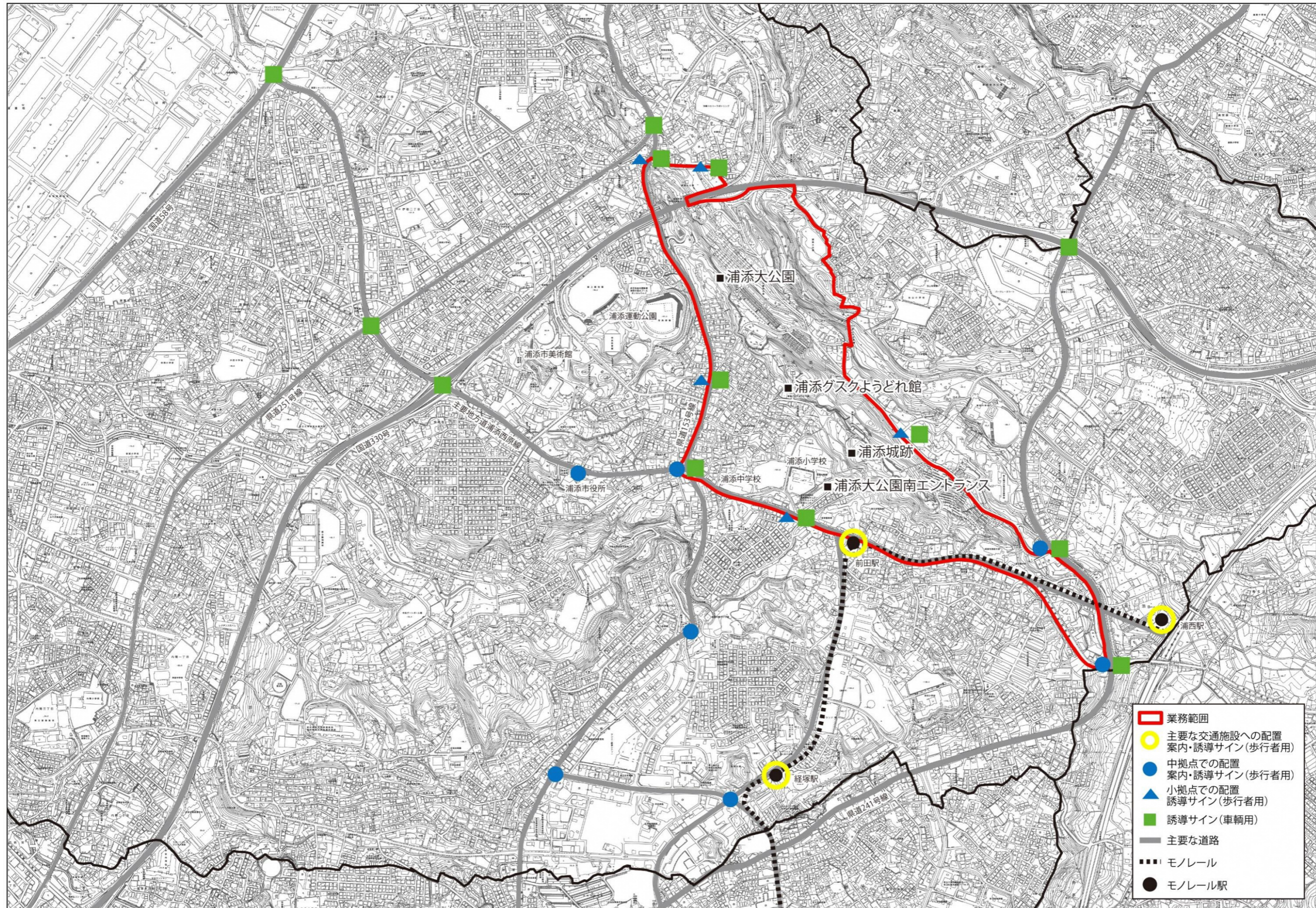
本計画の P25「4. 公共サイン計画 (2) サインシステムの構築 3) サイン配置の考え方」の考え方を基に、浦添城跡を中心とした周辺一帯の配置計画案を示します。

配置場所は、主要となる交差点や分岐点を基本としますが、歩行者を対象とした公共サインはモノレール駅を出発点として主要となる交差点や分岐点に配置検討するものとします。また、車両系を対象とした公共サインは主要となる交差点や分岐点に配置検討するものとします。

■ サイン配置のイメージ



2) サイン配置計画 (案)



6. 維持管理計画

公共サインの役割は「目的地への円滑な移動」を基本とし、その地に訪れた方が分かりやすく、安全に安心して移動ができることが重要となります。そのため、設置者による管理と定期的なメンテナンスが必要となります。

(1) サインの基本構造への対応

- サイン本体の劣化や破損など外的要因や情報の更新・変更などを想定し、サインの基本構造を部位ごとにユニット化することで、修繕時のコスト低減を図ります。

■基本構造ユニット化のイメージ

以下に示す取替可能箇所は一例であり、実際にユニット化する場合は設置事業者との調整が必要です。

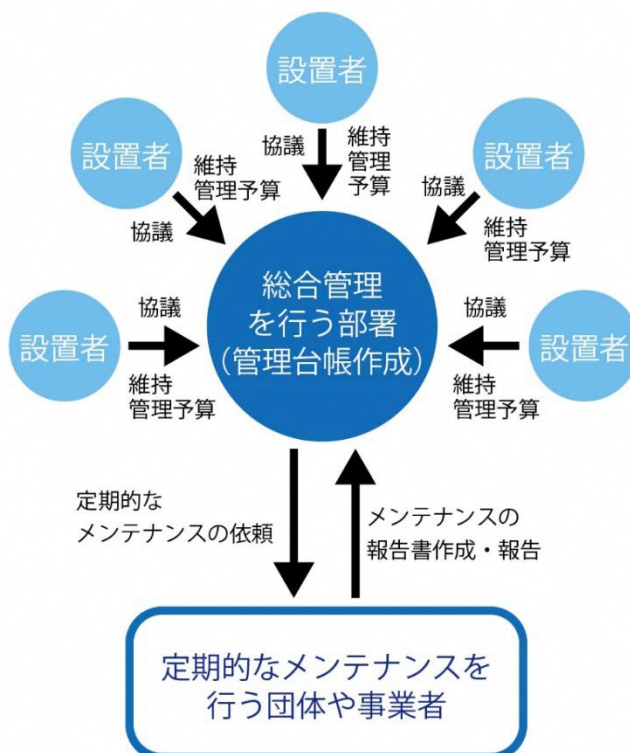


- サイン本体に使用する素材については、専門的な知識を有している関係団体等の協力を得て、耐久性のある素材や維持管理が容易に行いやすい素材を活用するとともに、経年変化に対応できるサイン本体の仕様とします。
- 道路の新設や施設の名称変更・移転などが生じた際は、すみやかに表示内容の整合を図るため、設置者（各部署）は表示内容等の更新・修正に努めます。

(2) 定期的な点検及び更新

- 公共サインの整備の際には、持続可能な公共サインの整備を行うことが重要であることから、定期的な点検を行うシステム作りが必要です。
- 設置者毎（各部署）に公共サインの設置を行っている現状から、市内の設置場所の把握が難しい状況となっています。そのため、今後、公共サインを設置する際は、公共サインを総合的に管理する体制作りが望まれます。
- 公共サインを総合的に管理する部署において、新設や廃止、設置時期、表示内容の変更、維持管理の状況など公共サイン台帳を作成し管理することが望まれます。また、公共サイン本体に管理番号や管理主体、連絡先等を記載し、管理が行いやすいシステムづくりが望まれます。
- 設置者（各部署）は、公共サインの設置を検討する際、公共サインを総合的に管理する部署と公共サインの種類や表示内容、規模、素材、設置場所などについて協議を行い設置することが望ましいです。
- 設置した公共サインについては、設置されたサインがその機能を保持し、景観と安全性を維持するため、定期的なメンテナンス（維持管理）を行うことが望ましいです。
- そのため、専門的な知識を有している関係団体等の協力を得て、官民連携による定期的なメンテナンス（維持管理）に関する“指定管理者制度”の様な体制づくりを検討する必要があります。

■管理体制のイメージ



資料編

【補足検討資料】

サインデザインのイメージ

サインデザインにおける浦添らしさ・沖縄らしさの検討

本計画で整理したデザイン基準を踏まえ、浦添らしさ・沖縄らしさを反映した、案内サイン・誘導サインのデザインイメージをとりまとめます。

ただし、ここで示すサインデザインのイメージは検討段階の内容となるため、デザインや素材については、(仮称)サインデザイン検討会などを開催し、浦添市公共サインデザインにおける基本事項をとりまとめる必要があります。

(1) 色彩や絵図等について

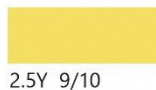
浦添らしさの感じられるサインデザインとするため、市のシンボルや都市像、工芸品、ゆいレール駅のデザイン等の既存する要素から、色彩や絵図等への活用を検討します。

【市のシンボル】

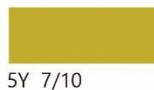
浦添市民の花、花木、木から連想できる色彩を以下に示します。なお、色彩及び色彩のマンセル値、図案はイメージであり、定義されているものではありません。



市民の花：オオバナアリアケカズラ



2.5Y 9/10



5Y 7/10



7.5GY 7/12



市民の花木：オオゴチョウ（アコウサ）



7.5R 5/18



5Y 9/12



7.5GY 7/12



市民の木：ホルトノキ（ターラシ、ターラサー）



7.5GY 7/12



7.5GY 5/10



2.5Y 5/6



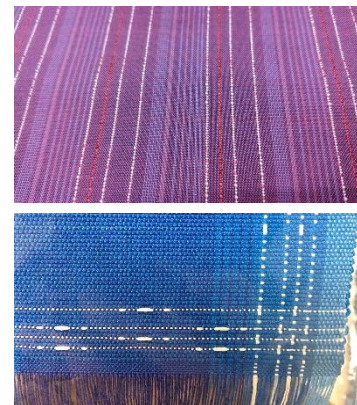
【浦添市の都市像 てだこの都市（まち）・浦添】

- 浦添市の都市像に含まれる「てだこ（太陽の子）」は、市内の拠点施設や、イメージガール、主要イベント等にもその名が含まれており、浦添市から連想するイメージの高い言葉となっています。
- てだこ（太陽の子）＝太陽より、オレンジや黄色がイメージされます。ただし、サインで用いられる黄色は注意色としての活用が多いことを踏まえ、オレンジ系の色彩の活用を検討するものとします。



【うらそえ織】

- 平成 18 年に生まれた特産品で、浦添市内で養蚕した繭から手作業により丁寧に挽き戻した糸を使った手織物です。
- 浦添の歴史伝説に残る古の女性（舜天王の母、尚寧王の王妃）の想いを受け、「愛情」「芯の強さ」「育む」を表す 3 本の糸と「太陽の輝きを放ち続けて未来へと導く」を表現する 1 本を合わせた 4 本の模様が特徴的です。



【浦添型】

- 鎌倉芳太郎によって紅型の祖型と位置付けられている染色技法です。
- 残された資料・記録が少ない中、古琉球紅型浦添型（蒟蒻型）研究所にて調査・研究が進められています。

近世浦添型の中で復元が完了している
『木綿老米色地丸霰七宝繫文様墨摺紅型』▶



【モノレールに使用されているステーションカラー】

- 浦添市内のモノレール駅から様々な地域に訪れる方が増えることが想定されるため、浦添市内に整備されているモノレール駅のステーションカラーの活用を検討するものとします。
- 「沖縄都市モノレールビジュアルデザイン検討委託業務（その2）より」浦添区間のステーションカラーは、既存区間の色の流れ（那覇空港～首里：青→緑→黄→オレンジ→赤）に沿い、文字の可読性も高く保つことのできる“DIC2434（紫）”となっています。

■ステーションカラーを使用した駅内のサイン



▲経塚駅 駅名表示



▲浦添前田駅 駅構内 案内サイン

(2) 素材について

浦添城跡一帯の歴史的趣のある地域においては、歴史的風情の感じられる、景観と調和のとれた公共サインの在り方を図る必要があります。また、今後浦添市全域においても公共サインの整備を進めることを考慮し、市内の多様な景観との調和を図るため、沖縄らしい素材を活用するものとします。

また、耐用年数が概ね5年以上の素材を活用することを基本とします。



▲赤瓦の活用例



▲琉球ガラスの活用例



▲琉球石灰岩

(3) 案内サイン・誘導サインのデザインイメージ

前述した「(1)色彩や絵図等について」「(2)素材について」で示した色彩や素材の一部を反映した、サインデザインのイメージを以下にまとめます。

■案内サインの例-①（うらそえ織、紫色を反映）

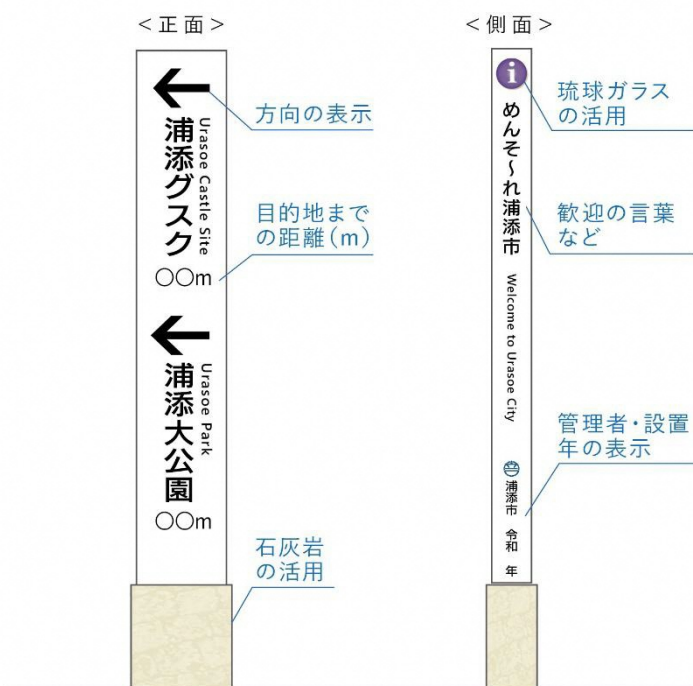


※参考として、モノレール経塚駅のステーションパターンを使用しています。実際にうらそえ織を活用したデザインを使用する場合は、関係団体と調整し検討を行う必要があります。

■案内サインの例-②（てだこのイメージを反映）



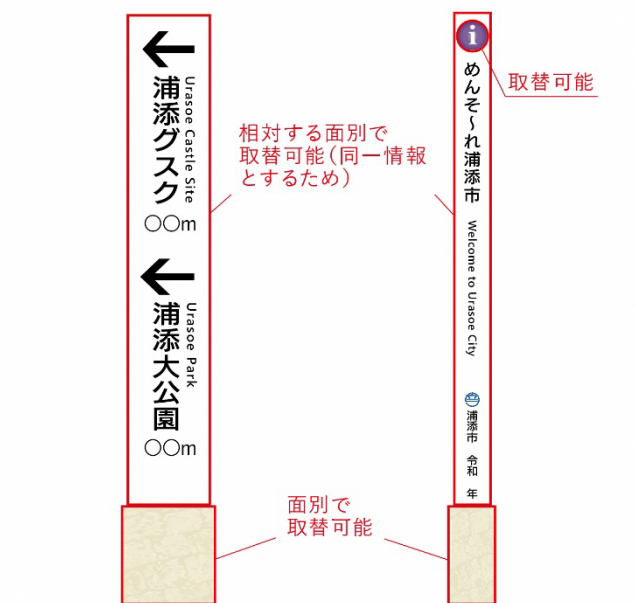
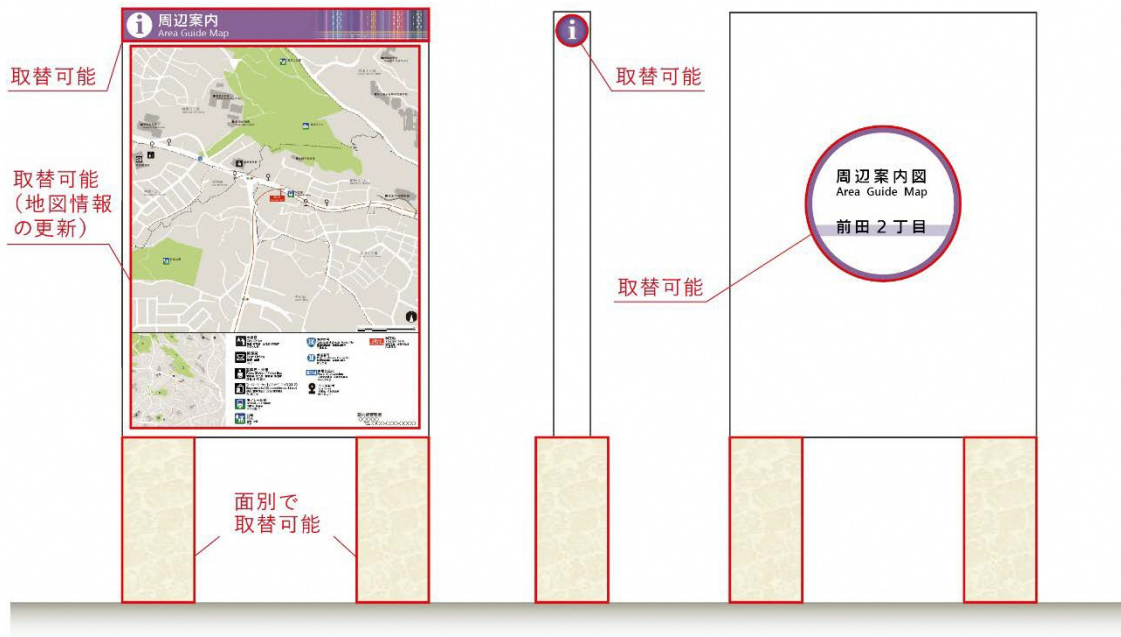
■誘導サインの例



(4) 維持管理における基本構造のユニット化について

本計画で示した維持管理の考えの下、サインの基本構造を部位的にユニット化することで、修繕時のコスト低減を図ります。

■基本構造ユニット化のイメージ



【参考資料】

その他参考ガイドライン等 一覧

No.	ガイドライン名	策定年月	策定主体
1	著名地点道路案内標識マニュアル	平成31年2月	沖縄ブロック道路標識適正化委員会
2	沖縄県における多言語観光案内サイン翻訳ルール	平成29年9月 (平成31年3月改訂版)	沖縄県文化観光スポーツ部 MICE 推進課
3	公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン バリアフリー整備ガイドライン 旅客施設編	令和2年3月	国土交通省総合政策局安心生活政策課

No.	ガイドライン（書籍）名	発行年月	監修
4	地図を用いた道路案内表紙ガイドブック	平成15年11月 (第1版第1刷)	国土交通省道路局企画課
5	公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック	平成14年11月 (第1版第1刷)	国土交通省総合政策局交通消費者行政課

浦添市 公共サイン計画

浦添城跡一帯

【発行】

浦添市 都市建設部 美らまち推進課
景観まちづくり係

沖縄県浦添市安波茶1丁目1番1号
098 - 876 - 1234 (代表)